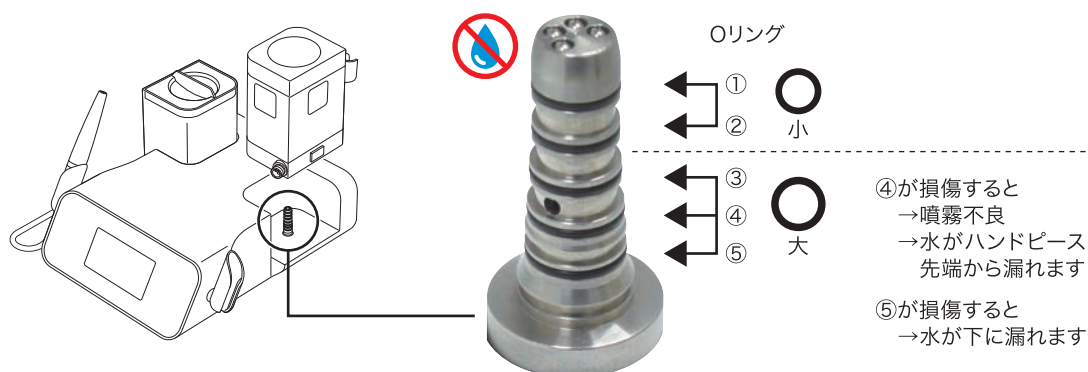


本書に記載するメンテナンスは、**パウダー詰まりによる故障などを防止するために行います。**
 メンテナンスを怠った場合、エア回路に水や汚れが混入し、**詰まりの原因となるため、必ず行ってください。**
 メンテナンスを実施する際は、感染予防のため必ず保護眼鏡、マスク、グローブ等を着用してください。

1. コントロールユニット

パウダーチャンバー本体接続部のOリングが損傷したり切れていないこと、また取り付け位置がズれていないことを確認します。

パウダーチャンバー本体接続部に水分や汚れがついていないことを確認します。



パウダーチャンバー本体接続部にパウダーが付着している場合は、付属のパウダー清掃用ブラシで取り除いてからチャンバーを挿し込みます。

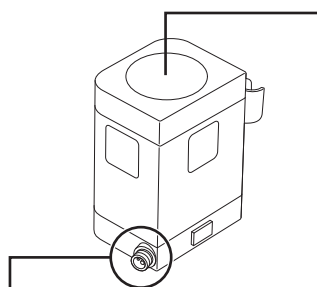


2. チャンバー

チャンバー内部、パウダーハンドピースホースソケットに水分がないことを確認します。



パウダーハンドピースホースソケット



チャンバー内部

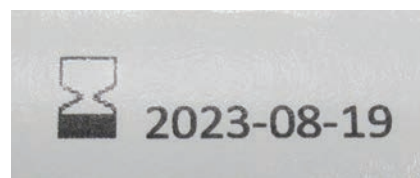
使用するパウダーが固まっていないことを確認します。



- ・パウダーをチャンバー内に充填する際は、パウダーが固まらないようにパウダーボトルを振ってから充填してください。ボトルを振る際は、必ずボトルのキャップを確実に締めてください。
- ・湿気を帯びて固まったパウダー、使用期限切れのパウダーは使用しないでください。



固まったパウダー



使用期限

3. パウダーハンドピースホース

パウダーハンドピースホースプラグのOリングが損傷したり切れていないことを確認します。



パウダーハンドピースホースプラグ

接続部を外した場合は、接続部に水分や汚れがないことを確認します。

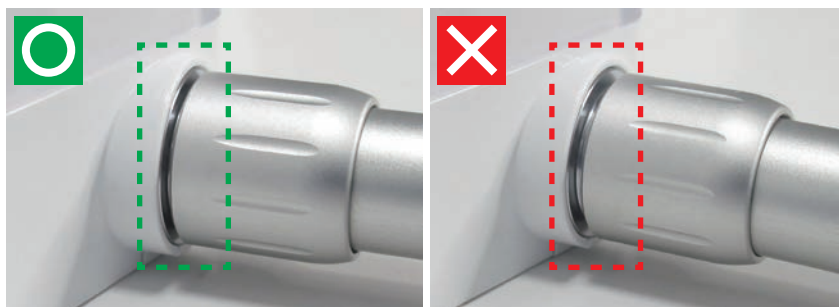
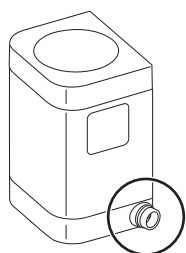


パウダーハンドピースホースプラグ



パウダーハンドピースホースコネクタ

パウダーハンドピースホースコネクタをチャンバーのパウダーハンドピースホースソケットに挿し込みます。
コネクタのナットが回らなくなるまで確実に締め付けます。
その後、コントロールユニットにチャンバーを挿し込みます。

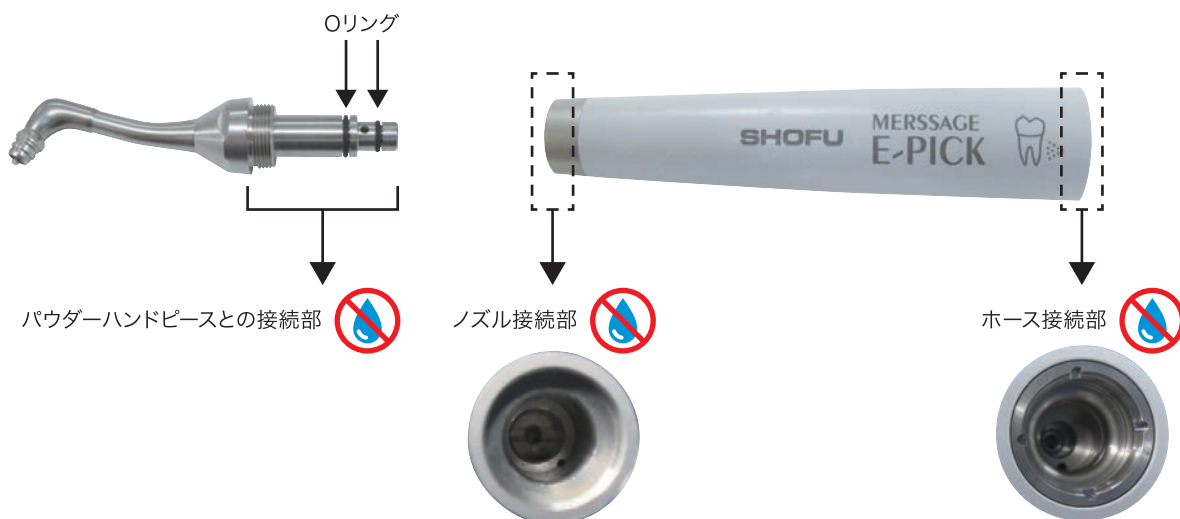


ゆるみがない

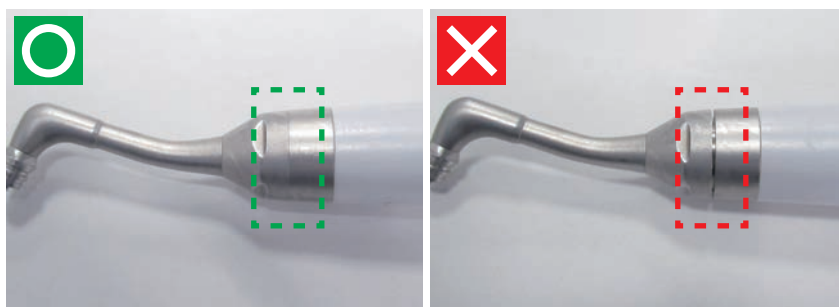
ゆるみがある

4. パウダーハンドピース

ノズルのOリングが損傷したり切れていないことを確認します。
ノズルとパウダーハンドピースとの接続部に水分や汚れがないことを確認します。



ノズルとパウダーハンドピースの接続部にゆるみがないことを確認します。



ゆるみがない

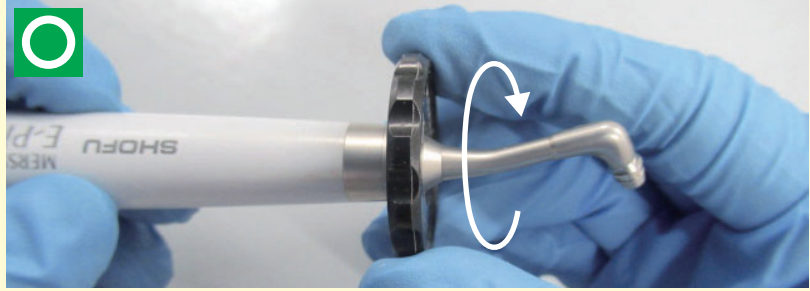
ゆるみがある

ゆるみがある場合は、必ず付属のリングレンチを使用して締め付けます。



リングレンチ

⚠️ リングレンチを使用せずにノズルの先端を手で回した場合、ノズルが変形する恐れがあります。



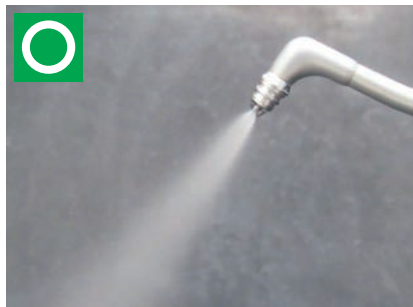
リングレンチを使用する



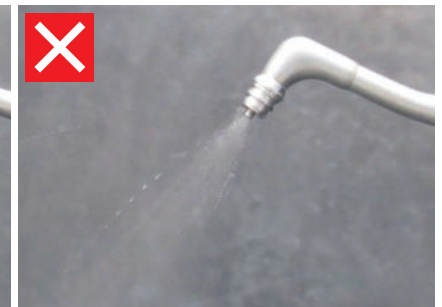
噴射状態が安定していることを確認します。噴霧状態が安定しない場合は、

- 1.コントロールユニット
- 3.パウダーハンドピースホース
- 4.パウダーハンドピース

の項目に戻り、Oリングの状態を確認してください。損傷したり切れている場合は、Oリングを交換します。



安定している



安定してしない
断続的に音がある(ブチブチ等)

本書に記載するメンテナンスは、**パウダー詰まりによる故障などを防止するために行います。**
メンテナンスを怠った場合、エアー回路に水や汚れが混入し、**詰まりの原因となるため、必ず行ってください。**
メンテナンスを実施する際は、感染予防のため必ず保護眼鏡、マスク、グローブ等を着用してください。

1. パウダーの廃棄

- ⚠️ ・パウダー詰まりの原因になるため、患者の治療終了時に残ったパウダーの再利用・チャンバーの水洗いは絶対にしないでください。
- ・チャンバーとチャンバー蓋のねじ部にパウダーが付着している場合、蓋が閉めづらくなります。下記手順にて、チャンバーとチャンバー蓋の清掃を行うと開閉がしやすくなります。

チャンバー内に残ったパウダーを廃棄し、ブラシ、または乾いた綿棒などでチャンバー内面とねじ部周辺、チャンバー蓋のねじ部周辺を清掃します。



付着しているパウダーをエアーなどで取り除きます。



チャンバー内をエアブロー



チャンバー蓋をエアブロー

2. 空運転

チャンバー内にパウダーが残存しない状態で、パワー設定「10」・注水量設定「10」に設定し、フットコントローラーのDボタンを踏んで空運転(1秒以上)を5回繰り返します。

3. オートクリーニング

! パウダーハンドピースとノズルを超音波洗浄する際は、オートクリーニング前に行ってください。

オートクリーニングキーを約3秒間長押ししてオートクリーニングを行います。パウダーハンドピースおよびパウダーハンドピースホース内の残留パウダーおよび残留水を排出します。

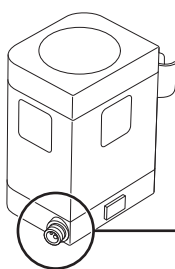


4. チャンバーとパウダーハンドピースホースの清掃

パウダーハンドピースホースコネクタのナットをゆるめ、チャンバーからパウダーハンドピースホースを取り外します。パウダーハンドピースホースプラグ、パウダーハンドピースホースコネクタおよびパウダーハンドピースソケットに付着したパウダーを付属のパウダー清掃用ブラシで取り除きます。



パウダーハンドピースホースプラグ



パウダーハンドピースホースソケット



パウダーハンドピースホースコネクタ

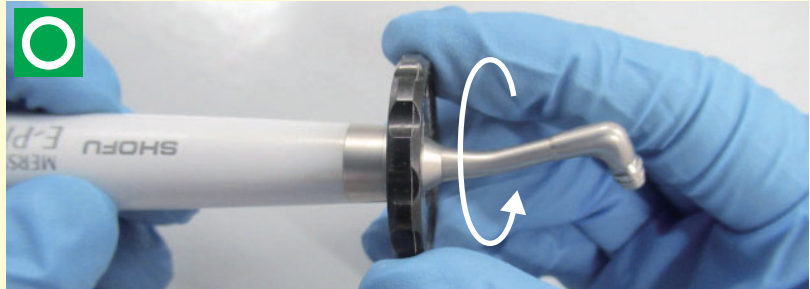
5.ハンドピースの清掃

パウダーハンドピースからノズルを取り外します。

取り外す際は、必ず付属のリングレンチを使用してください。



リングレンチ



リングレンチを使用する



リングレンチを使用せずにノズルの先端を手で回した場合、ノズルが変形する恐れがあります。



パウダーハンドピース接続部内側のパウダーを付属のパウダー清掃用ブラシで取り除きます。
ノズルのOリングのパウダーを付属のパウダー清掃用ブラシで取り除きます。



パウダーハンドピース接続部



ノズル接続部



ホース接続部

パウダーハンドピース内部とノズル内部
をエアブローします。



パウダーハンドピース内部



ノズル内部



本製品は患者の診療終了毎に、洗浄・消毒・オートクレーブ滅菌を行ってください。

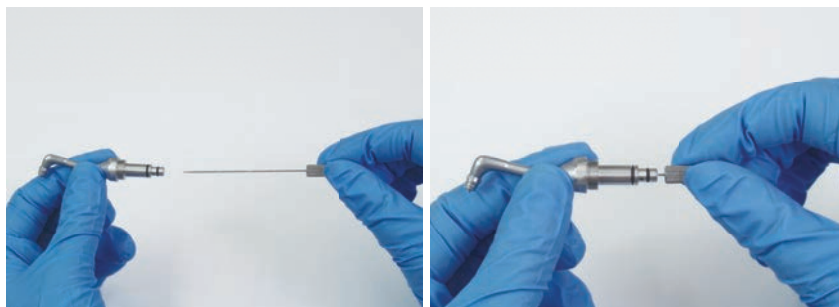
本書に記載するメンテナンスは、**パウダー詰まりによる故障などを防止するために行います。**
メンテナンスを怠った場合、エア回路に水や汚れが混入し、**詰まりの原因となるため、必ず行ってください。**
メンテナンスを実施する際は、感染予防のため必ず保護眼鏡、マスク、グローブ等を着用してください。

1. ハンドピースの清掃

- ⚠️ • パウダーの詰まりを防止するため、最低週に1度、滅菌前に超音波洗浄を行ってください。
- 超音波洗浄は、オートクリーニングの前、またはノズル、パウダーハンドピース内部の清掃後に行ってください。
- 酸化電位水(強酸性水, 超酸性水)、強酸, 強アルカリ性の薬剤、塩素含有の溶液、ベンジン、シンナー等の溶剤は使用しないでください。

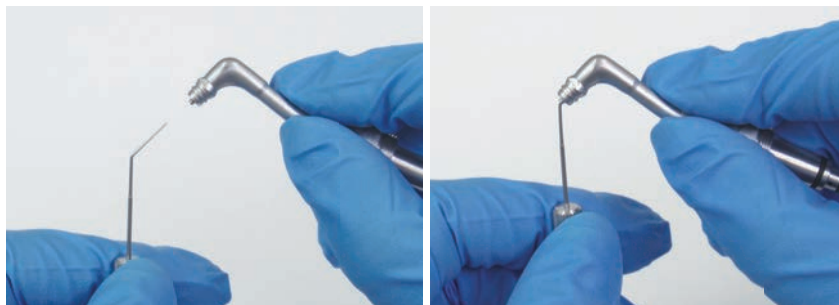
ノズル内部の清掃

付属のパウダー清掃用ワイヤー(小)でノズルの根元を清掃します。



ノズルの根元

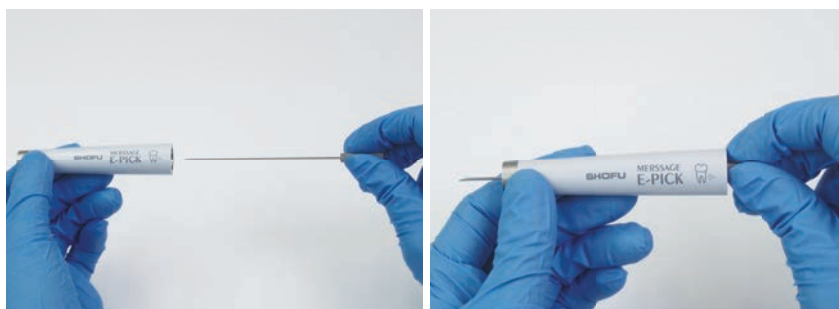
付属のパウダー清掃用ファイルでノズルの先端を清掃します。



ノズルの先端

ハンドピース内部の清掃

付属のパウダー清掃ワイヤー（大）でパウダーハンドピース内部を清掃します。



ハンドピース内部

超音波洗浄（最低週に1度・滅菌前）

30～50℃のぬるま湯で超音波洗浄を行います。



乾燥

洗浄後は全てのパーツの水滴をエアータンク等で取り除き乾燥させます。



パウダーハンドピースをエアブロー



ノズルをエアブロー

タービンオイルの塗布とオートクレーブ滅菌

Oリングに付属のタービンオイルを塗布後、オートクレーブ滅菌を行います。

 本書: 日常点検03参照



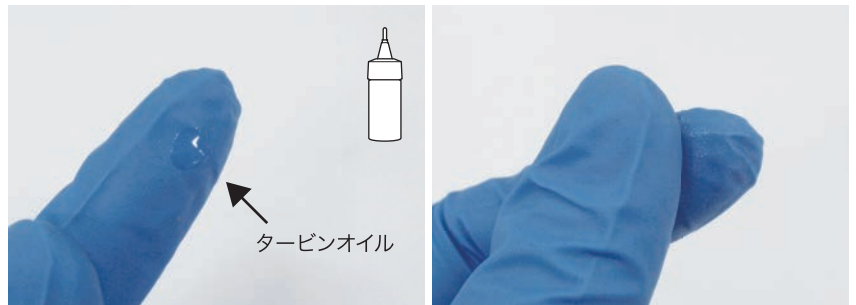
2. Oリングのメンテナンス

! Oリング部分へのタービンオイルの塗布を怠ると以下の恐れがあります。

- ・各接続部が固くなる。
- ・Oリングが損傷し水が漏れる。

スムーズに接続ができない場合は、以下に従いOリングのメンテナンスを行ってください。

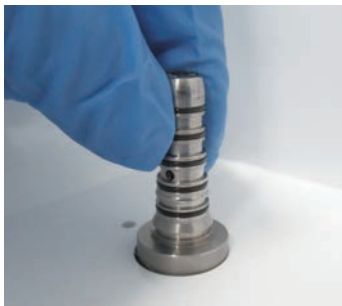
付属のタービンオイルを指に取り、なじませます。



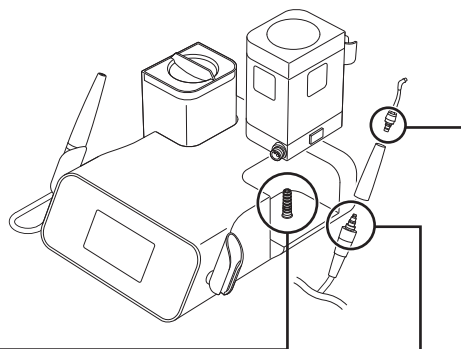
タービンオイルを指に取る

指になじませる

各部Oリングに指になじませたタービンオイルを塗布します。余剰なオイルは柔らかい布などで拭き取ります。



パウダーチャンバー本体接続部



ノズル



パウダーハンドピースホースプラグ

松風のホームページにYouTubeによる
関連動画がございます。
※BGMが流れますので、音量にご注意ください。
<https://www.youtube.com/watch?v=JQeVWxSakac>



